

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

島民に育てられる教師たち

北薩教育事務所 所長 木之下 浩一

奄美大島本島の南部に^{かけろまじま}加計呂麻島がある。さらに南には^{うつけしま}徳之島がある。ところで、この両島の間に有人島があるのをご存知だろうか。一つは^{うつけしま}請島、もう一つは^{うつけしま}与路島である。いずれも大島郡瀬戸内町に属し、離島の中の離島と言われ、当時は最高へき地の特5級地であった。この二島のうち、私が20年前に初任教頭として赴任したのが、請島にある池地小中学校（小中併設校）だ。全校児童生徒11人の極小規模校だが、子供、保護者は、底抜けに明るく、島民は、学校を大切に思い、協力を惜しまない、そしてたくましく生きる方々だった。

地域と学校は一体で、一番感動したのが運動会と学習発表会であった。いずれも地域との合同実施で「この島にはこんなに沢山の人がいたのか」と思うくらい校庭や体育館を埋め尽くした。日曜開催ということもあって、盆、正月同様、島帰りを兼ねての参加も多かった。大行事なので、少ない職員数をカバーするため、島の青壮年団が役員として裏方を担い、毎年、大成功裡に終わることができた。

請島は高等学校の無い島で中学校が最高学府だ。そのため親をはじめ、島民たちはこぞって、子供たちが島を出てから困らないように、また、恥をかかないようにと我が子同様に育てていた。いわゆる「十五の島立ち」をさせるための予めを常にあらゆる場面で行い、親として、人生の先輩としての責を果たしていた。だからこそ、学校への期待も大きく、「躰等は家庭で責任をもってするから学校では、きちんと学習をさせて欲しい」という声がPTAや地域の会合等で繰り返し出された。教師もその期待に応えようと複式学級のメリットを生かし、授業時間以外の個別の学習指導や体力づくり、心の教育等に力を注ぎ、生き生きと教育に携わっていた。

このように、子供たちに積極的に関わる教師への感謝の気持ちを伝えることを、島民は忘れなかった。例えば、いつの間にか校内の草刈りがしてあったり、大物が釣れたといっっては、美味しい魚介類のおすそ分けがあったりするなど教師を大切にしてくれた。また、ある日の夕刻、「教頭先生、何してるわけ？港においで」と連絡があり、行ってみると、とれたばかりの色鮮やかな五色海老が踊っていた。調味料等を使わず、海水の塩味が刺身を黒糖焼酎とともにいただいたあの美味しさは今でも忘れられない。いつの間にか、学校職員もその酒席に加わり、月明かりの下、保護者を含む島民との「飲みニュケーション」が繰り広げられた。「島の子供たちを頼むよなあ」と何回もお願いする父親に、「お父さん、任せて！」と、笑顔で応える教師。子供の悩みを相談し、相互に理解し合い、握手を交わす親と教師。人間関係・信頼関係づくりの基本を学ぶ機会が豊富な島でもあった。

請島の教育は、地域密着型というよりは、地域が学校密着型であり、教師が島民から教えられ、育てられる場面の多い島であった。教師は、請島の池地小・中学校から転勤するときは、人間としても教師としても一回り大きく成長していた。

主体的・対話的で深い学び

〔長島町立城川内小学校〕

本校では平成29年度から「わかる・できる喜びを実感できる子どもの育成」を研究主題に掲げ、算数科の研究をスタートさせました。現在、次のようなことを中心に取り組んでいます。

一単位時間における指導過程の工夫・改善



課題を焦点化させる様子

「北薩の授業づくり3ポイント」を指導過程に位置付け、教師が意識して授業を構成しています。具体的には、授業参観チェックリストの充実を図っています。

協働的な学習（ひ・と・み学習）を重視した課題解決の活動



友達と考えを交流させる様子

課題解決にあたり、「ひ：一人で」「と：友達と」「み：みんなで」を合言葉にして、対話的で協働的な学習に取り組んでいます。また、課題解決を支えるヒントコーナーの活用等も進めています。

指導過程の工夫により、児童が一単位時間の見通しをもち、主体的に課題解決や発表に取り組む姿が見られるようになってきました。

また、「ひ・と・み学習」の流れに慣れてきたことや、ヒントコーナーを活用することで、友達と考えを交流させて、自分の考えを広げたり、深めたりする姿勢も広がっています。

〈教育事務所から〉

城川内小学校は、学習指導案、板書計画、授業参観チェックリストの3点セットを共通理解・共通実践し、成果をあげています。実践にこだわり、実践を積み上げている学校です。

「自殺予防週間」における具体の取組について(平成30年9月10日～16日)

毎年、8月下旬から9月下旬等の学校の長期休業明けにかけて児童生徒の自殺が急増する傾向があることを踏まえ、学校では、家庭等と連携した取組を行ってください。

【学校における早期発見に向けた取組】

- 1 アンケート、教育相談等の実施による心情把握に努めること。
- 2 生活の記録等(日記)を毎日、確実に点検し、適正なコメントを記入すること。
- 3 登下校、授業、休み時間、放課後、部活動等の様子を観察すること。気になる場合は、必ず面談等を行うこと。
- 4 平素から教職員間はもとより、家庭等との連絡を密に行い、情報共有を行うこと。特に、家庭が把握した児童生徒の悩みや変化について、積極的に学校に相談するよう、学校の相談窓口を周知しておくこと。
- 5 児童生徒に対し、悩み等がある場合は、教職員に限らず、保護者、友達等、話しやすい人に相談することを伝えておくこと。その際、「かごしま教育ホットライン24」(0120-783-574)、「24時間子供SOSダイヤル」(0120-0-78310)の電話相談窓口を保護者も含め周知しておくこと。

「考え、議論する道徳」をめざして!

平成30年度地区道徳教育研修会が、阿久根小学校及び阿久根中学校を会場に、7月3日(火)、195人が出席し、実施されました。

本研修会は、道徳科(道徳の時間)の授業を公開し、授業研究や事例発表等を通して道徳教育に関する教職員の指導力向上と指導上の諸課題の解決を図り、道徳教育の一層の充実を図ることを趣旨としています。

研修主題を「『考え、議論する道徳』をめざす授業改善と評価は、どうあればよいか。」とし、「子供の実態や学習過程等に応じた多様な指導方法の工夫」、「多面的・多角的に考えさせる発問の工夫」、「互いの考えを深める話し合い活動の工夫」、「子供の学習状況や道徳性に係る成長を把握する評価の工夫」等について、熱心な協議が行われました。



【阿久根小学校】



【阿久根中学校】

フレッシュ研修で学びや絆を深めました

フレッシュ研修(宿泊研修)を、7月24日(火)～27日(金)の日程で、薩摩川内市立少年自然の家にて実施しました。2日目には、鶴翔高等学校にて農業体験も実施しました。初任者の感想では、「校種の違う初任者同士で、協力して何かをやり遂げた喜びや達成感、決して自分一人だけでは味わうことはできなかった。」「子供たちが自分の夢や目標をもって努力する楽しさを実感できるよう、教師として努力したい。」など、様々な講義や活動を通して、学びや絆を深める機会となりました。



北薩地区ジュニア・リーダー養成事業

6月30日～7月1日に、薩摩川内市立少年自然の家で宿泊研修を実施しました。主にリーダーとしてのスキルの向上を目的とし、地区内の中・高校生18人が参加しました。

初日は、レクリエーションの進め方やリーダーの役割と心得について学び、その後、野外炊飯や夏の星座について体験しました。2日目は、KYT(危険予知トレーニング)研修を受け、創作活動を行いました。最後にチームワークゲームを行い、班全員が自分の役割を見つけながら課題を解決していきました。

本研修を通して、ジュニア・リーダーの絆が深まり、今後の子ども会活動の活性化につながることを期待しています。



交通事故・違反を起こさないために!

交通事故・違反が多発しています。

下記の10項目を守り交通事故・違反の防止に努めましょう。

- 1 全席シートベルト着用を習慣付ける!
- 2 思いやり・譲り合いの気持ちを持って運転!(あおり運転は、絶対しない)
- 3 前方を注視し、ながらスマホや携帯電話の使用はしない!
- 4 発進、後退の際は、周囲の安全を確認する!
- 5 交差点では、安全な速度に減速し、安全確認を徹底する!
- 6 原則、上向きライトでの走行と早めのライト点灯!
- 7 十分な車間距離を確保して、前方の視界を広げる!
- 8 飲酒運転や体調不良時等の運転はしない!
- 9 歩行者や自転車に対しては、温かく思いやりの気持ちを持って保護する運転!
- 10 常に、心と時間に余裕を持って、安全運転を意識して運転する!



良質な教育環境づくりへのアドバイス②

授業では、問題解決的「～だろうか」の「めあて」を掲げていますか。

授業のゴール(まとめの言葉、身に付けさせたい力)をイメージしながら、3ポイント(めあて、活動等、まとめ)のつながりを意識した教材研究を行うことがポイントになります。

編集後記

地域が育む「かごしまの教育」県民週間のポスター原画・標語に積極的な応募をいただき、ありがとうございました。県民週間に向けて、児童生徒が作成したポスターや標語の有効活用についてもよろしくお願ひします。